

平成 24 年度「景観まちづくり協議会」WG 活動報告(概要)

住まい・まちづくり担い手事業の実施

- ・今年度は、被災地の復興や防災、低炭素に関する活動を応募条件として新たに設定し、あわせて、昨年度と同様に「建築デザイン、まちの景観の向上、建築資産の活用等に関する活動」と「建築協定等が結ばれた地域等における住環境の整備・保全のための活動」を行う活動を対象として募集が行われた。
- ・51 団体の応募があり、WG では応募のあった団体のうち、応募条件を満たす 46 団体の審査を行い、27 団体を推薦した。
- ・それを受け、住まい・まちづくり担い手支援機構の審査委員会で、27 団体の支援が決定された。

専門家及びサポーターの派遣の実施と地域事務局の設置

概要

- ・昨年度から引き続き、全ての支援団体を対象として、専門家及びサポーターを派遣することとなった。
- ・専門家は支援団体の活動を進める上で必要なアドバイス等を行う者、サポーターはそれぞれの地域で景観まちづくりを担う専門家予備軍として支援団体の活動をサポートする者。
- ・専門家については、団体による自薦もしくは協議会による推薦のどちらも可とし、本年度は団体自薦が 26 団体、協議会推薦（WG で人選）が 1 団体となった。
- ・サポーターの推薦及び担い手事業の事務手続きを円滑に進めるために、都道府県ごとに建築士会が中心となって地域事務局を設置した。
- ・サポーターについては、地域事務局が地元の要望を把握し、また地域の建築士等の希望を踏まえたうえで推薦を行った。
- ・WG 委員による派遣状況を視察も行われた。（黒磯駅前活性化協議会 / 栃木県、バス通り商店街を考える会 / 東京都、美しい街岡本協議会 / 兵庫県）

実施内容

- ・専門家としては、シンポジウム・勉強会等のパネリスト・講師や地域資源の調査、活動内容に関するアドバイスなど、関わり方は多岐にわたっている。
- ・サポーターとしては、地域資源の調査、ワークショップへの参加など、活動団体とともに作業を進めるものが多い。

派遣の効果及び課題

- ・支援団体が景観まちづくり協議会による専門家の推薦を希望する支援団体が 1 団体のみであった。ただし、遠方から専門家を派遣することで、協議会の支援がなければ接点を持つことのできなかつた専門家によるアドバイスが行われた。
- ・団体自薦の専門家派遣については、団体にとって様子の分かった専門家のアドバイスが得られることで、団体側の満足度は高かったと思われる。
- ・これまでまちづくりに関わりのなかつた建築士がサポーターとして関わることにより、新たな経験を積むことができた。活動団体としても新たな担い手との接点をつくることができ、本事業以降の継続的な関わりが期待できる。
- ・今年度は全ての地域において地域事務局を設置し、サポーターの推薦を行うことができた。

来年度以降の活動予定

- ・来年度以降の活動については、これまでの成果を活用した景観まちづくりの担い手となる人材の育成や、意見交換会の開催、建築景観の向上に寄与するための調査・研究について、検討を行っている。